

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：37703

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16683

研究課題名(和文) 飛鳥井家を中心とした中世末期・近世前期の公家の学芸と継承の研究

研究課題名(英文) Study on arts and literature and their succession among court nobility in the late Middle Ages and early modern period, with a focus on the Asukai family

研究代表者

日高 愛子 (HIDAKA, AIKO)

志學館大学・人間関係学部・講師

研究者番号：20706741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中世末期から近世前期にかけての公家の学芸継承の実態と、人物ネットワーク、およびその社会的意義を解明するために、歌道・蹴鞠道で活躍した飛鳥井雅庸、雅章、雅豊の三代にわたる学芸に着目し、研究を行った。また、九州を中心に、中世末期から近世前期の飛鳥井家の歌学資料および蹴鞠関係資料について調査を行い、堂上歌人と地方歌人達との関わりについて明らかにした。調査の過程で、地方歌人と堂上との関係を物語る新たな歌書などを見出したことは、今後の研究にも寄与する成果である。

研究成果の概要(英文)：In this study, in order to shed light on the realities of the handing down of arts and literature among court nobility, the interpersonal networks, and their social significance from the end of the Middle Ages to the early modern era, I conducted research that focused on the fine arts of three generations of the Asukai family who were active practitioners of the arts of tanka poetry and kemari: Masatsune Asukai, Masaaki Asukai, and Masatoyo Asukai. In addition, I researched documents about the Asukai family's poetry and related to kemari in the late Middle Ages to the early modern period, and revealed the relationship between poets among the court nobility and regional poets. In the course of this research, I was able to find new books of poetry that tell of the relationship between the regional poets and the nobility, a result that will contribute to future research.

研究分野：日本文学

キーワード：中世 近世 和歌 蹴鞠 飛鳥井家

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで中世の公家の歌学とその継承について、飛鳥井雅康・雅俊を中心に考察してきた(科研費・研究活動スタート支援・25884049「中世公家の和歌活動と歌学継承の研究 飛鳥井雅康・雅俊を中心に」)。その結果、彼らの詠草に嫡流と庶流の社会的位置付けに伴う相違が認められること、また、歌・蹴鞠両道に共通する精神性が家の継承問題に大きく関与していることなどが判明した。そこで、中世から近世への移行期において、こうした公家の学芸がどのように変容し、或いはどのように継承されたのか検証し解明することが新たな課題となった。また、歌道・蹴鞠道をはじめとする諸芸道を介した人物ネットワークがいかなる様相であったのか明らかにする必要性を見出した。

中世後期から近世初期にかけて活動した飛鳥井雅庸は、後水尾天皇のもとで歌道・蹴鞠道を能くし、家の再考を図った人物と目される。雅庸に関して、管見の限り、従来の研究では、堂上歌壇研究の視点から、歌壇の構成員の一人として触れられるに留まり、雅庸そのものを照射し、その社会的役割やネットワークについて明らかにしようとするものは見られない。一方、雅庸の息雅章は、後水尾院より古今伝受を授かるなど、歌壇における中心的な人物として注目されてきた。しかしながら、その多くは、雅章の歌人としての一側面を取り上げるもの、禁裏あるいは地下いずれかに着目するものであり、歌・蹴鞠双方の観点から、また堂上・地下双方の観点から総合的に捉えようとする研究は少ない。また、雅庸の孫雅豊は、父雅章の後継として家業を継いだ、その活動はこれまで注目されず、『和歌文学大辞典』(古典ライブラリー)に「以後は目立った歌人はいない」と記述されるように、雅章以後の歌人は評価されぬまま今日に至っている。しかしながら、飛鳥井家は幕末に至るまで禁裏の歌学を支えた家として重要であり、公家の学芸について通史的に捉えるためにも、雅章以後の歌人についても光を当て、その活動について具体的に検証することが課題であった。

2. 研究の目的

本研究では、中世末期から近世前期にかかる公家の学芸の様相と、家業としての継承の実態について考察し、堂上と地下の人物ネットワーク、中央と地方との関わりを解明し、その社会的意義について明らかにすることを目的とする。その際、後水尾院とその前後の時代に活動した飛鳥井雅庸・雅章・雅豊の三代に着目することで、堂上歌人としての飛鳥井家と地方歌人との繋がりや、歌道・蹴鞠道を通じた文化的ネットワークの広がりについて検証し、中世から近世への移行期にお

いて公家の学芸が社会的に果たした役割とその意義について明らかにする。また、先行研究で未紹介の資料や具体的に検証されていない資料について調査を行い、資料の蒐集・整理をし、中世後期から近世前期にかけての和歌資料データベースの構築を目指す。

3. 研究の方法

(1) 着到百首の調査分析

飛鳥井雅庸と飛鳥井雅豊の着到百首が現存しているため、それぞれ伝本について調査し、書誌情報を整理し、本文の検証を行う。そのうえで、着到百首の参加メンバーなどから各歌壇の状況を踏まえつつ、両者の相違について考察する。

(2) 定数歌・詠草の調査分析

飛鳥井雅章・飛鳥井雅豊の定数歌について調査し、書誌情報を整理し、本文を検証する。未翻刻の資料に関しては、翻刻する。加えて、飛鳥井雅庸・飛鳥井雅章の詠草集の伝本について再整理し、未翻刻資料については翻刻する。重複歌については本文の比較を行う。また、詞書等から人物関係を考察し、堂上と地下双方における人物交流および活動の具体相について解明する。

(3) 地方史料の調査分析と人物ネットワークの解明

地方の文庫調査などを通して、和歌資料を発掘・整理し、そこからうかがえる堂上との関わりについて考える。その際、蹴鞠免状などの記録資料にも着目し、蹴鞠道と歌道の双方の観点から、地方歌人とのネットワーク構築の様相について明らかにする。

4. 研究成果

(1) 着到百首の調査分析

以下の現存する飛鳥井雅庸・雅豊の着到百首について、調査・再整理し、検証を行った。

- ・飛鳥井雅庸の着到百首
 - ・宮内庁書陵部本(152-67)
 - ・宮内庁書陵部本(453.2)(『続群書類聚』所収)
 - ・神宮文庫本(函号:1403)
 - ・篠山市青山本(函号:206)
 - ・彰考館本(函号:巳14・07355)
- このうち、神宮文庫本・篠山市青山本・彰考館本は本文異同が殆ど見られない。ただし、彰考館本は巻頭に「慶長七三十二日如此令清書卷之」とあるが、奥書等が付されない。
- ・飛鳥井雅豊の着到百首
 - 宝永二年仙洞御着到百首
 - ・高松宮家本(H-600-652 函388)
 - 「仙洞着到百首 宝永二年」(外題、内題)
 - ・四天王寺大学恩頼堂文庫本(516)
 - 「愚詠着到百首」(外題)、「着到百首和歌従仙洞被仰出詠進ノ宝永二年 従九月九日ノ至十二月十九日」(内題)
 - 貞享五年愚詠一夜百首

- ・四天王寺大学恩頼堂文庫本(514)
「愚詠一夜百首」(外題)、「詠一夜百首和歌」(内題)
元禄十三年愚詠百首
 - ・四天王寺大学恩頼堂文庫本(515)
「愚詠百首」(外題)、「百首和歌」(内題)
上記の四天王寺大学恩頼堂文庫本3冊ならびに歴史民俗博物館高松宮家本について調査を行い、翻字データを作成した。の四天王寺大学恩頼堂文庫に蔵される雅豊の着到百首3冊はいずれも同箱に納められ、それぞれ貞享五年、元禄十三年、宝永二年の奥書を持つ。その筆跡から、雅豊自筆と認められる資料である。の高松宮家本にも宝永二年の奥書があり、恩頼堂文庫の「宝永二年仙洞御着到百首」と同内容を有するため、本文について比較検討を行った。加えて、同着到百首の以下の伝本について調査し、雅豊の着到百首に関して本文を比較検証した。
 - ・宮城県立図書館伊達文庫蔵『仙洞御着到百首宝永二年』(伊911.264/21/3-1~2)
 - ・蘆庵文庫蔵『宝永二年仙洞御着到御歌会写』(七-7)
 - ・ノートルダム清心女子大学黒川文庫蔵『仙洞御著到和歌百首題』(黒G189)
 - ・今治市河野美術館蔵『仙洞御着到百首』(344.826)
 - ・宮内庁書陵部蔵『仙洞御着到百首宝永二年』(伏・154)
 - ・尊経閣文庫蔵『仙院着到百首』(386-15)
 - ・陽明文庫蔵『御着到百首』(近/セ/102)
 - ・陽明文庫蔵『宝永二年仙洞御着到百首写』(近/229/37)
 - ・歴史民俗博物館高松宮家旧蔵『院御所着到百首和歌』(H-600-348 ふ函99)
- 以上に加え、外題に「自宝永二年九月九日至十二月十九日/仙洞御着到百首」と打付け書きする安永八年写本を入手できたため、併せて本文の比較を行った。
- の飛鳥井雅豊の「宝永二年着到百首」に関する解題と翻刻を紀要に掲載した(志學館大学人間関係学部研究紀要38)。

(2) 定数歌・詠草の調査分析

・飛鳥井雅章の定数歌

以下の定数歌について調査し、翻字データの作成と書誌情報の整理を行った。

宮内庁書陵部蔵『雅章卿千首』(501-432)

内閣文庫蔵『詠三十首和歌』(『賜蘆拾葉』所収, 217/11)

内閣文庫蔵『詠富士』(『賜蘆拾葉』所収, 217/11)

国文学研究資料館蔵『飛鳥井一位雅章卿芳野三十一首』(ナ2-297) 飛鳥井雅豊写

以上に加え、外題に「吉野記 雅章卿作」とある写本1冊と、外題はなく内題に「飛鳥井雅章芳野之詠」とある写本1冊を入手したため、書誌情報を整理するとともに、歌部分を中心に伝本との比較検証を行った。

・飛鳥井雅豊の定数歌

宮内庁書陵部有栖川宮家伝来本(マイクロ番号: 21-144-7)
マイクロフィルムでの調査を行い、翻字した。

・飛鳥井雅章の詠草

以下の詠草について、再調査を行い、未翻刻資料を翻字した。このうち、は歌1首であるため他本との比較対象としなかったが、

について本文の検証を行った。

宮内庁書陵部蔵『飛鳥井雅章詠草』(501-432)

国文学研究資料館蔵『飛鳥井雅章卿詠草』(坂田17-76)

大阪府立大学蔵『雅章卿詠歌』(旧大阪女子大学所蔵, 911.15-G)

國學院大学蔵『雅章卿和歌』

宮城県立図書館伊達文庫蔵『飛鳥井雅章卿詠草』(伊911.268/2)

祐徳稻荷神社中川文庫蔵『飛鳥井雅章卿詠草』(6/2-2/287)

(3) 地方史料の調査分析と飛鳥井家とのネットワークの解明

飛鳥井雅章に師事していた肥前小城藩第2代藩主鍋島直能の歌集『直能公御詠歌集』を入手し、調査を行った。本歌集は、佐賀藩の家老が『直能公御年譜』に収録される直能の詠草を抄出し歌集として仕立て直したもので、新出の孤本である。歌集の末尾には『直能公御年譜』の文事に関する記述についても抄録する。雅章はじめ堂上歌人との関わりを示す歌も少なくなき貴重であるため、解題とともに翻刻をまとめ、発表した(佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要10)。また、肥前の鍋島家と飛鳥井家の関わりについて、祐徳稻荷神社中川文庫の歌書群や佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫の歌書群の調査で得られた研究成果の一部を博士論文にまとめ、シンポジウムで発表した(佐賀大学第10回地域学シンポジウム「肥前鍋島家の文雅」於佐賀大学)

加えて、佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫に所蔵される『新拾葉集』について調査した。本歌集は鍋島直能により編まれたとみられ、後水尾天皇や後西天皇をはじめ、飛鳥井家、日野家、鍋島家と姻戚関係にあった坊城家などの公家の歌が収められている。このうち、後水尾天皇の歌は『後水尾院御集』と重複するものも見られるが、その他の歌人については殆どが現在のところ出典未詳の歌である。恐らく直能は短冊や懐紙を蒐集し、そこに一部歌集の和歌を加え、親王から順に配列し、歌集に仕立てたものと考えられる。現在までの考察で得た内容について、研究発表を行った(「小城鍋島文庫蔵『新拾葉集』について」小城鍋島文庫研究会第6回研究発表会、於佐賀大学)

また、鹿児島大学附属図書館玉里文庫および鹿児島県歴史資料センター黎明館に所蔵

され禁裏の関わったと思しき歌書・歌学書・蹴鞠免状などについて、調査を行った。今後更に調査を進める予定である。このほか、垂水市教育委員会所蔵の近世後期の歌書群のなかから飛鳥井家との関係を示す記事を取り上げ、近世後期にかけての薩摩歌壇と飛鳥井家との関係について口頭で発表した(「薩摩における堂上歌壇の影響 垂水歌壇の場合」幕末佐賀歌壇研究会第1回研究会、於国文学研究資料館)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

日高愛子，飛鳥井雅豊『愚詠着到百首』翻刻と解題，志學館大学人間関係学部研究紀要 38，査読無，2017，pp.189-200

日高愛子，架蔵『直能公御詠歌集』，佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要 10，査読有，2016，pp.121-133

日高愛子，飛鳥井家歌学とその継承，学位論文(博士)，2016，398

〔学会発表〕(計4件)

日高愛子，薩摩における堂上歌壇の影響 垂水歌壇の場合，幕末佐賀歌壇研究会第1回研究会，国文学研究資料館，2018

日高愛子，小城鍋島文庫蔵『新拾葉集』について 小城鍋島文庫研究会第6回研究発表会，2018

日高愛子，直能の和歌 堂上歌人との交流と古典享受，佐賀大学第10回地域学シンポジウム「肥前鍋島家の文雅」，佐賀大学，2017

日高愛子，古今伝受の終焉 飛鳥井雅典の伝受記録を通して，九州大学国語国文学会，九州大学，2016

〔図書〕(計2件)

白石良夫・中尾友香梨・大久保順子・亀井森・土屋育子・沼尻利通・日高愛子・三ツ松誠・村上義明・二宮愛理・脇山真衣・片桐美優，佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵 十帖源氏，笠間書院，2018，410

小城鍋島文庫研究会編，小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版)，小城鍋島文庫研究会，2017，pp.31-39

6. 研究組織

(1)研究代表者

日高 愛子 (HIDAKA, Aiko)

志學館大学・人間関係学部・講師

研究者番号：20706741